

平成7年度 茅ヶ崎市ピーストレイン平和大使広島派遣事業
事前学習会における子どもたちからの疑問について

【疑問1】

- ・アメリカ軍に降伏した後の子供達はどのような生活をしていたのでしょうか。
- ・戦中は学校などで戦い方を学んだりしていたと聞いています。元の生活にもどったのですか。

【回答1】

戦後比較的早くに学校授業は再開されますが、やはりまだ国民全体の生活が苦しかったので、家の手伝いをすることもたちもいました。食料やおやつも不足していました。時々、アメリカ軍からもらうチョコレートやチューインガムは子供たちにとって御馳走でした。また、都市部では空襲のために孤児になった子供たちもいました。彼らは、靴みがきなどで生活費を得ていました。学校の授業も戦争中とは大きく変わり、民主主義にもとづく教育科目（社会科など）が教えられるようになりました。古い教科書で民主主義に合わないところは、子供たちが自分で墨を使って塗りつぶすことになりました。

【疑問2】

7月16日に受けた被害で食糧がなくなっているように思いましたが、何を飲み食いしていたのかが気になります。

【回答2】

食糧がまったくなくなったというわけではなく、量は少ないですが、主食であるお米は、配給によって各家庭に配られました。その他、副食品やお酒の配給もありました（量は少ないですが）。

また、家庭菜園で、サツマイモなどをつくる家庭も多くありました。また、衣類などを農家でつくる野菜と交換する人も少なからずいました。ただ、やはり肉類は不足していました。

【疑問3】

- ・沖縄県に、アメリカ軍の基地があると聞いたことがあります。沖縄県はアメリカに奪われなかつたのですか。

【回答3】

戦争の末期、沖縄は日本本土防衛の最前線に位置付けられ、日本軍が大部隊を配置しました。また、アメリカ軍も、日本本土攻撃の足掛かりとして、沖縄を重視しました。

その結果、戦争末期には有名な沖縄戦が展開され、日米の兵士の他、多数の県民が犠牲になりました。

現在の中高校生の年代の人たちも、少年兵（男子）、看護師（女子）として動員され、多くの戦死者を出しました。敗戦後、沖縄はアメリカの占領統治下に置かれることになり、多くの民有地が米軍基地建設のため接収（とりあげられること）されました。

1972年に沖縄は日本に返還されましたが、日米間の取り決めにより、いまでも多くの基地が置かれており、日本最大の基地県（二位は神奈川）となっています。

【疑問4】

- ・アメリカが日本の地図をたくさん持っていて詳しかったことはなぜでしょうか。
- ・アメリカがコロネット作戦で使った地図は、なぜ田んぼや川、地形、山などの場所だったり、雨や降水量のことをここまで知っているのが不思議です。

【回答4】

アメリカは日本と戦争の可能性が出た段階で、日本軍のみならず、地理、気候、文化、国民性について本格的に研究を開始し、あらゆる分野の研究者を動員し、分析にあたりました。地図等については、アメリカは戦前から世界中の地図を集めていました（これは、現在アメリカの議会図書館に保存されています）。

また、戦時中は、偵察機高高度撮影を行い、この写真（かなり精密ものです）を徹底的に解析していました。また、海岸の状態等については、多くの資料をもとに分析していました。ともかく、情報というものに対する姿勢が違うのです。

【疑問5】

コロネット作戦の被害があったらどうなっていたのでしょうか。

【回答5】

想像するほかはありませんが、おそらく沖縄戦のような悲劇が展開されていたと思います。特に、上陸前の空襲、艦砲射撃、サリン散布で住民に多大の被害が出たと思います。また、日本軍の考え方は「一億総玉碎」ですから、兵士のみならず、一般の住民も猟銃や刀、竹槍でアメリカ軍と戦うということになったでしょう。

【疑問6】

1946年まで戦争を続けていたら、原爆がどこかに落される可能性があったのでしょうか。

【回答6】

断言は出来ませんが、可能性はゼロではありません。新潟、小倉などいくつかの都市が候補にあがっていました。

【疑問7】

ハワイの真珠湾の被害、なぜ攻撃したのか（攻撃しなかったら戦争していなかつたのでは？）なぜ負けたのでしょうか。

【回答7】

真珠湾には、太平洋方面のアメリカ海軍（太平洋艦隊）の司令部・基地がありました。まず、真珠湾にいるアメリカの主力艦隊をつぶす、というのがねらいでした。

攻撃の結果、戦艦4隻撃沈などの「大戦果」を得ますが、太平洋戦争の主役となる航空母艦は当時真珠湾に入港していませんでした（結果として空母の被害ゼロ）。

逆に、半年後（1942年6月）のミッドウェー海戦では、日本は主力空母4隻を失い、これから徐々に戦局は日本に不利になっていきます。

戦争がはじまる前、日米関係は、中国情勢などを巡ってどんどん悪くなっていました。そのため、戦争の可能性は日増しに高まっていました。

【疑問8】

茅ヶ崎のシンボルである鳥帽子岩が砲撃演習の的になって変形してしまったことに対し

て、当時の住民はどう思ったのでしょうか？怒って訴えたりしたのでしょうか。

【回答8】

多分、頭にきたと思いますが、敗戦国である日本国民は、日米間の取り決めて、アメリカに直接苦情を言えませんでした。また、言えたとしても、「文句は日本政府に言え。」という答えが返ってくるだけでした。

米軍演習などで被害が出た場合、日本政府がこれを補償しましたが、当時日本自体が財政難で、十分な補償をすることは不可能でした。

なお、私は鳥帽子岩の変形について、抗議がなされた、ということについては確かな情報は知りません（漁業被害についての陳情はあったようですが）。

【疑問9】

アメリカ軍は日本が降伏してからも日本本土にとどまって演習をしていたということは、日本を攻撃するつもりがまだあった、ということなのでしょうか？

また、日本がまた他国を攻撃しないように見張りをしていた可能性もあるのでしょうか。

【回答9】

日本を攻撃するのではなく、仮想敵国は、ソ連（現在のロシア）や中国（中華人民共和国）といった東側陣営の国々です。特に演習が盛んだったのは、朝鮮戦争（1950年から1953年）の頃で、実際茅ヶ崎海岸で演習に参加した部隊が、朝鮮での戦争に送られています。

ただ、日本の周囲の国が日本の軍事大国化を恐れていたのは事実で、例えば、アメリカのニクソン大統領は、在日米軍は日本に対する「ボトル・キャップ」（びんの蓋）だと言っています。要するに、日本が再び軍事大国化しないように、在日米軍が押さえている、と言っています。

【疑問10】

茅ヶ崎海岸は13年間アメリカ軍の演習場になっていましたが、茅ヶ崎市民もそれに対して銃で対抗してしまう、ということはなかったのでしょうか。

【回答10】

それは100%無理です。敗戦後、連合国軍総司令部の命令により民間の武器所有は、原則禁止されました（美術刀剣、猟銃などは許可制）。もちろん、旧日本軍の武器は全部接收されます。また、アメリカ軍は日本国内に情報網を張り巡らし、アメリカ軍に対する不穏な動きはほとんど察知しています。たとえ、武器をもって立ち上がっても、圧倒的な軍事力を前に制圧されたでしょう。ただ、立川市の砂川闘争など、住民が武器を持たずして立ち上がった例はいくつもあります。茅ヶ崎についても、市、市民が一緒になって、演習場返還運動を展開しています。これらの運動は無力であったとはいえないでしょう。アメリカは一応民主主義を建前としている国ですから、武装蜂起よりもむしろ武器をもたない住民運動の方を気にするのかもしれません。